

進歩のなかった漢字学習法

漢字は長い間“前時代的”な文字として、不当な汚名を着せられてきました。そのため、教育の面でも、いずれは廃止されるべきものとして、その教育指導法は全くだれからも顧みられず、十年一日いや百年一日の如く、ただ旧式な機械的な詰め込み教育しか行なわれませんでした。明治以降、どの教科の学習方法も日進月歩の発展があったのに、漢字の学習方法だけは進歩はおろか、退歩しているとさえ思われる有様です。

ところが、漢字はよく考察してみますと、全体として縦に横に相互に密接な関連があって、その一つをつまみ上げると、全体がそれに従って、つぎつぎとひとりでにつまみ上げられるような関係にあるのです。このような関係にある漢字を、ばらばらに切り離して一つ一つ学習していったのでは、時間がかかり、骨が折れるばかりではなく、折角苦労して覚えても、すぐ忘れてしまいます。

英語では、早くから、体系的に学ぶ方法が能率的であることを、実験によって確かめております。

私は、漢字を体系的に学習する方法について、20年来研究し、実際の指導にもこれを実践して、その効果を調査してきました。その結果、小学校の一、二年生でも、今の中学生くらいの漢字力を身につけさせることは、特別の努力をしないでもできることがわかりました。

体系的な漢字学習の大きな特長は、基本的な一字の学習で、それに数倍する漢字を類推して知ることができることです。つまり、一字を習えば、十字が自然とわかる、ということです。また、良いことには、それは、大変に良い“頭脳の体操”になるということです。しかも、それは興味ある楽しい体操なのです。一石二鳥どころか、三鳥、四鳥といえることができます。

では、漢字の体系的な学習法とは、どういうことでしょうか。